

V 評価

ア 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

I 運営・展開

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
「ONLY ONE」の学校創造へ、思いを一つにする職員集団「チーム北陽」が機能している。保護者・地域とのつながりを強化し、地域で鍛える振舞いの実践が行われている。	前期 おおむね良好	おおむね良好	・心打つ振舞いを4つの型で実践しているので継続してほしい。 ・副担任制を活用して複数の目で生徒を育てている点が良い。また、先生同士の学びにもつながっている。 ・学校報の全戸配布が地域連携の観点からしてもよいので続けてほしい。
	年度 良好	良好	・コロナ禍であっても様々な工夫を凝らし、地域とつながって学校運営をしているという意識が感じられる。 ・今後、さらに、自他への思いを深められるよう前向きな学校の取組を継続してほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○学校教育目標を「心打つ振舞いで、自他への思いやりと幸せを芽ぐむ生徒の育成」とした。コロナ禍の中で、何が子どもたちにとって大切なかを模索しながら、ミニ運動会や大北総体などに向けての活動を進めることができた。その中で、新聞にも掲載されたが吹奏楽部と芸芸部の子どもたちが、放課後、各部を回って応援する姿が正に心打つ振舞いであった。今後も「やーやー方式」などを活用しながらチーム北陽として取り組んでいきたい。</p> <p>○副担任制のよさを子どもたちが実感している。学年だよりや学校報等を通して北陽中のよさを実感している。今後もやるべきことの意義を共通理解した上で様々な活動を進め、北陽中のよさを発信していきたい。学校報の配布が遅れることのないよう再度、子供たちと全戸配布の意義を確認したい。</p> <p>○コロナ禍の中で、地域防災活動等を例年通り進めることはできなかったが、防災担当を中心に今だからこそできることを考え実践できたことはよかった。また、事務職員と連携することで、事務処理負担の軽減がなされている。今後も予算執行、設備管理等が迅速かつ適正に行われるように努めていきたい。</p> <p>○コロナ禍の中、生徒と職員が地域を元気にしたい、地域に貢献したいという思いで、何ができるかを模索しながら実践することができた。その陰には、保護者や地域の方々の、本校の取組に対するご理解とご協力があった。今後も「やーやー方式」で思い・考えを共有し合い、本校の強みである4つの「かた」にチームとして取り組んでいきたい。</p> <p>○副担任制の数値が安定していることは、生徒に寄り添い支援してきた成果である。今後も一人たりとも置き去りにしないということを肝に銘じながら、副担任制や週1の主任会を効果的に活用していきたい。また、北陽中はボランティア精神が旺盛である。校内外でボランティアの場を意図的に設定するなどして、地域の方々とのつながりを更に強化していきたい。</p> <p>○おたよりや学校報を通して北陽中のよさを伝える保護者が増えた。今後も北陽中の輝いている場面等を積極的に発信し、生徒に地域で生きることの尊さを実感させたい。今後も事務職員と連携して、事務処理等適確に実行できる職員集団でありたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 組織的運営体制の確立	(1) 学校教育目標の妥当性の検証	「やーやー(課題名乗上げ)方式」経営戦略ミーティングの設置	3	3
1 諸会議の効果的な運営	(2) 学年部組織の強化と月1回の職員会議運営の充実	副担任制の活用及び週1の主任会、案件一覧に基づいた定例職員会議の実施	3	4
2 情報の発信の工夫	(3) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信の発行	地域と生徒の接点強化(学校報配布に係る生徒の活用と指導場面としての運用)	3	4
3 地域の教育力の活用	(4) 防災活動や地域行事、子どもハローワークへの積極的な参加	地域防災活動推進による地域とのつながり強化、地域行事参加への工夫、子どもハローワーク奨励	3	4
4 事務職員との連携	(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理	事務処理負担の軽減、定期的な点検による設備管理及び予算管理の適正化	4	5

[1に関連するデータ]

[アンケート種別] ○生徒 □保護者 ■教職員

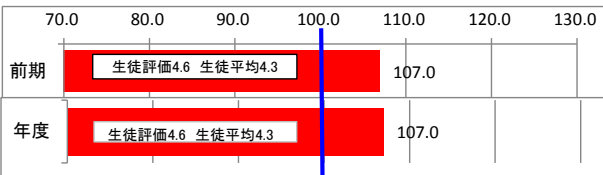
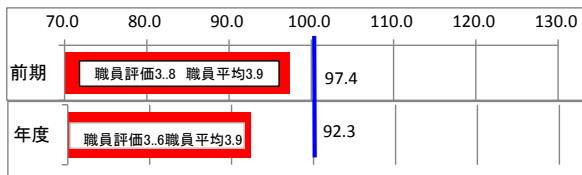
[5段階評価] 5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや不十分 1:不十分

(1) 学校教育目標の妥当性の検証

■「やーやー(課題名乗上げ)方式」経営戦略ミーティングの設置は、学校教育目標「心打つ振舞いで、自他への思いやりと幸せを芽ぐむ生徒の育成」を目指す上で効果的に機能していたか。

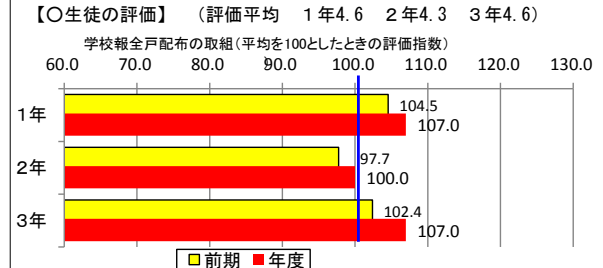
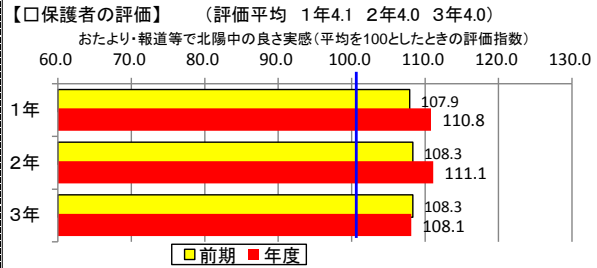
(2) 学年部組織の強化

○担任と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくれましたか。



[2に関連するデータ]

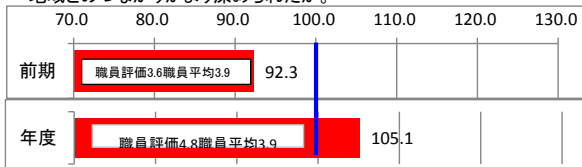
(3) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信の発行



[3に関連するデータ]

(4) 防災活動や地域行事、子どもハローワークへの積極的な取組

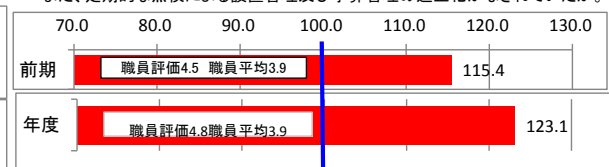
■ 地域防災活動や地域行事、子どもハローワークを活用し、地域とのつながりがより深められたか。



[4に関連するデータ]

(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理

■ 事務職員との連携により、事務処理負担の軽減がなされていたか。また、定期的な点検による設置管理及び予算管理の適正化がなされていたか。



ア 学校運営の状況

II 企画・調整

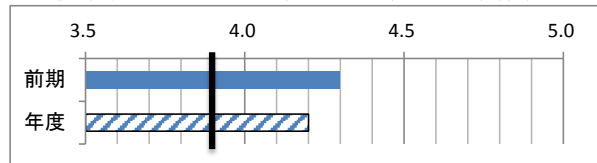
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒の振舞いを鍛えて「心」を動かす創造的な企画がされ、実態に応じた調整が図られている。	前期	おおむね良好	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、かなり頑張っているが、地域でも更にしっかりできるように、保護者等と連携して指導を頑張っていたらいい。 ・行事等での心打つ振舞いは大変よくできているし、このような方針を保護者も生徒もよく理解している。 ・諸検査の効果的な活用については、数値が低いので、今後、更に頑張ってもらいたい。
	年度	おおむね良好	
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○校長から「自立期」のまとめと位置づけられた、開校6年目の北陽中となった。ゆるぎない「北陽中らしさ」とは何か、ということを探し、多くの活動に取り組んでいるが、今年はコロナ禍で「例年通り」とはいかない年となっている。しかし、生徒や保護者からのアンケート結果を見ると、学校行事等に対し非常に好意的な評価がされている。これは、北陽中学校に対する信頼感の表れとみる。後期もこれに甘えることなく、学校のねらいが地域や保護者に伝わり、より学校のことを信頼してくれるような活動の調整を図りたい。コロナ時代の新しい中学校の在り方が、保護者にも生徒にも伝わるように工夫していきたい。</p> <p>○昨年度より「北陽中の生徒と教師で奏でる質の高い授業」を「学美」とし、実践を重ねてきた。コロナ禍で本校の強みである集団における言語活動が制限され、休校により生徒や保護者だけでなく、職員からも不安の声が挙がった。アンケート結果では昨年より評価が低くなった。しかし、教科指導については3年生の保護者からの評価が昨年より高くなった。昨年度までやってきた実践やデータを今一度振り返り、今だからこそできることに目を向け、前向きに取り組む。また、日常的に授業を見合う「学美ツアー」、教科の枠を越えて全職員で行う研修会を軸に、効果的な職員研修を目指したい。</p> <p>○コロナ禍で様々な活動を縮小せざるを得ない中で、2学期は「どうやったら北陽中生の姿を地域にアピールできるか」「修学旅行・校外学習を始めとした、地域に学ぶ活動はどうあるべきか」ということを模索した期間であった。学校祭は2日間開催(午前のみ)とし、種々の感染症対策を講じて実施した。保護者や生徒の感想は概ね好意的で、特に3年生の達成感の数値が高く、ねらいを達成できたのではないかと考える。地域に学ぶ活動は、夏休みの地域防災活動、福祉施設や公民館での表現活動、校外学習などがあつたが、時間の制約の中でねらいや目的の吟味が足りず、目的を達成し切れていなかったという疑問が残る。このような社会情勢とはいえ、活動のねらいを共通理解し、その達成のために生徒も教師も力を尽くすことができる企画・調整を心がけていきたい。</p> <p>○2学期は多くの方々に本校の授業を見ていただく機会があつた。「学美」の要素の1つである「生徒の共感性・規律性のある振舞い(学びかた)」を特に認めていただいた。もう1つの要素である「教師の専門性のある教材研究」についてはご指摘いただいた。新学習指導要領で求められる「見方・考え方」についての研究が未だ手探りの状態であることにより、教職員の教材研究の評価が下がったと考えられる。しかし、各々の授業の質が前期より下がったわけではない。今後は、生徒や教師のよさを認め、課題解決に向けて情報共有できる場を増やし、継続的かつ具体的な研究を進めていきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
5 校務アジャストメント	(6)教育活動を支える見通しある提案、学校帳簿管理	指導の見通しを保障する全体計画と予定の提示、学校帳簿作成手順の周知と管理	3	4
	(7)心を動かす学校行事の工夫	3大行事(運動会、学校祭、卒業式)に対する生徒の目の色を変える仕掛け		
6 課題解決のクローズアップ	(8)学校課題の絞り込み・課題解決	生徒の「？」や「！」を引き出す教材研究	3	3
	(9)諸検査の効果的な活用	学習状況等諸調査の分析と対策		

○学校評価アンケートの数値から (○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価[5:大変よい~3:だいたいよい~1:大いに問題]
 (太線は、アンケート項目全体の平均値 ○生徒4.3 □保護者3.7 ■教職員3.9)

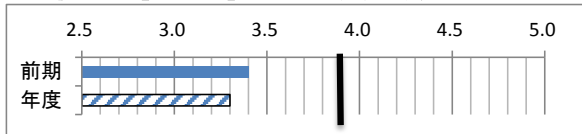
【(6)に関連するデータ】

■指導の見通しを保障する全体計画と予定の提示、諸帳簿管理



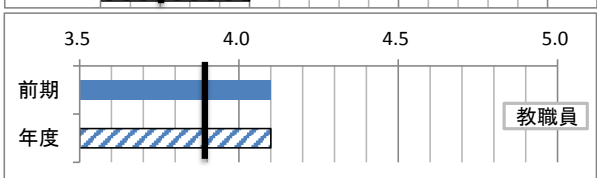
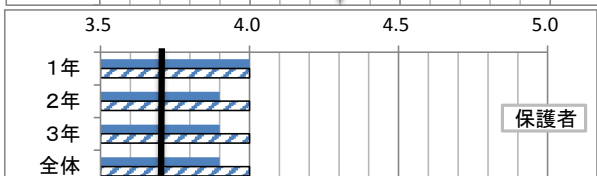
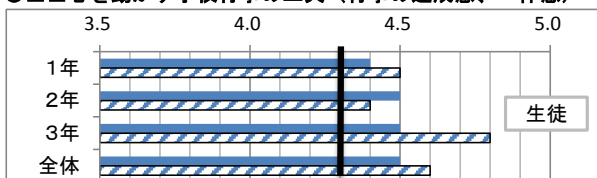
【(8)に関連するデータ】

■生徒の「？」や「！」を引き出す教材研究



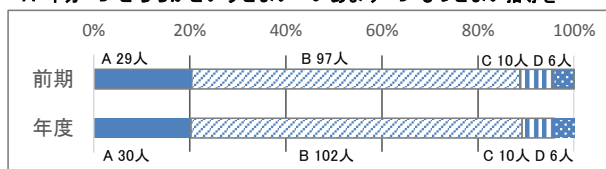
【(7)に関連するデータ】 上段:前期 下段:年度

○□心を動かす学校行事の工夫(行事の達成感、一体感)

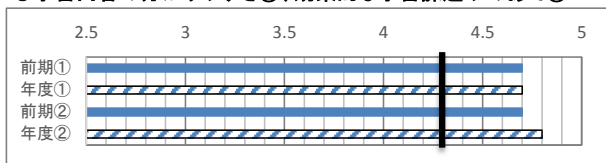


□学校での教科指導について

A:十分 B:どちらかというよい C:あまり D:もっとよい指導を

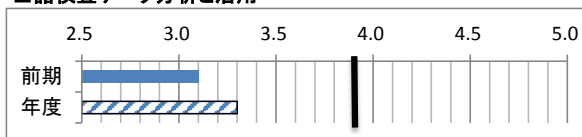


○学習内容の分かりやすさ①、効果的な学習課題やめあて②



【(9)に関連するデータ】

■諸検査データ分析と活用



イ 生徒の状況

Ⅲ 主体的学習態度・基本的学習習慣

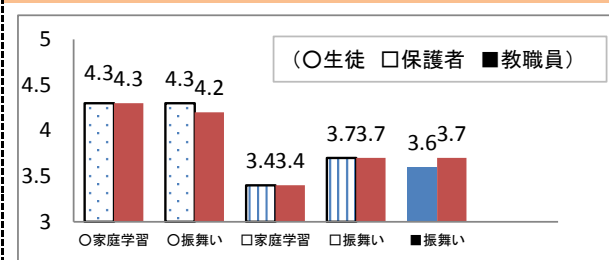
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒が主体的に授業に臨み、基本的学習習慣と確かな学力を身に付けるように取り組んでいる。	前期	おおむね 良好	おおむね 良好
	年度	おおむね 良好	おおむね 良好
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○「主体的な学習態度の育成」については、生徒自身は前年度との比較で数値が上昇している。「効果的な家庭学習のしかた」をテーマに全校集会を行い、先輩が後輩の悩みや質問に答える取組、小中で連携し互いの頑張っている家庭学習ノートを紹介し合う等の取組から、生徒達の中でも家庭学習を充実させていこうという意識が少しずつ育っているように感じる。反面、保護者評価は生徒評価に比べて数値が低い。ノートの文字や学習内容、課題への取組状況について、まだまだ不十分と感じている保護者もいる。学校で行っている取組や手立てを家庭に周知させながら、より一層効果的な家庭学習と、主体的な学習ができる生徒を目指したい。</p> <p>○「授業の充実」については、新型コロナウイルスの感染予防への配慮が必要とされる中、思うように小集団での話し合い等の学習形態を取り入れることが出来なかったという反省があった。こういう状況下で、どんな学習形態が効果的なのか、どうすれば生徒の思考を深めることができるのか、これまでに効果があったと思われる取組、その反対にあまり効果的ではなかったもの等、互いの実践を振り返るとともに、これまで以上に教材研究を深め、職員全員で研修していく。</p> <p>○「授業の充実」に関して、前期の反省をもとに2学期以降は各学級、各教科で座席の配置や学習形態の工夫に努めた。どの教科もまだ改善や工夫が必要であるが、今後も本校が目指す授業(学美)づくりを研修していきたい。また、TTについて「下位の生徒に対して手厚く指導できた反面、上位を引き上げる手立てが不足」という意見があった。「一人たりとも置き去りにしない」をイメージしたとき、つい下位層に目を向けがちだが、上位を伸ばすという視点もまた同様大切に。「上位を引き上げる手立て」についても今後職員で検討していく。</p> <p>○生徒による教科アンケート結果を見ると、ほとんどの項目で前期より数値が上がっており、生徒自身は「学びかた(授業での振舞い)」を意識して授業に臨んでいるという意識が向上している。学習委員会からの働きかけや生徒、先生方双方の頑張りの成果である。翻って、職員からは「授業における振舞い」とは単に「学習の約束事を確認」するのではなく、「鍛える」という視点が必要という意見があった。現状維持で満足するのではなく、学美につながる北陽中生の振舞いとは？を考え、さらに高みを目指す生徒、職員集団でありたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
7 「学びかた」の指導	(10) 主体的学習態度の育成	集団学びの「型」の策定と定着	3	3
8 確かな学力	(11) 授業の充実	一人たりとも置き去りにしない学習形態の工夫と小集団学習の恒常化	3	3
	(12) 生徒の力を高める諸活動	個に応じたPUNやドリル学習などの工夫、読書活動の実施		

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや不十分 1:不十分]

[7に関するデータ]

主体的学習態度の育成(左:前期, 右:年度)



「学美」を創り上げる座席形態の工夫



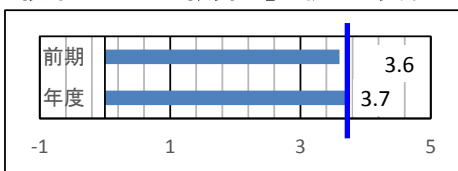
異学年で感想を交流し合う「読書集会」



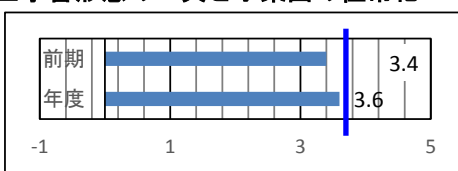
[8に関連するデータ]

授業の充実

■授業における「振舞い」の提示と実践



■学習形態の工夫と小集団の恒常化



○生徒による教科アンケート

	前期	年度
チャイム前学習を行っていましたか。	4.4	4.6
学習課題(めあて)は、学習することやゴールが分かりやすいように示され、解決しようとする意欲を高めるものでしたか。	4.7	4.8
先生の質問に対して、自分の思いや考えをもちましたか。	4.5	4.6
黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。	4.7	4.8
発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。	4.6	4.7
質問や友達の意見を受けて、分かりやすく伝えようとしていましたか。	4.4	4.6
自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	4.4	4.6
学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したり、振り返ったりする時間が確保されていましたか。	4.7	4.8
学習内容は分かりやすいですか。	4.7	4.7
あなたは、意欲的に授業に取り組んでいましたか。	4.5	4.7

生徒の力を高める諸活動

	前期	年度
○生徒	4.3	4.3
ドリル学習で学習内容の定着を図ることができましたか。	4.3	4.3
■教職員	3.8	3.5
ドリル学習の工夫、読書活動がなされ、生徒の力を高めることにつながっていたか。	3.8	3.5

イ 生徒の状況

IV 自主的・自律的な生活、望ましい生活習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒一人一人の心身の状態に目を向けながら、安全・安心で、規律ある生活を実現する「暮らしかた」の指導に努めている。	前期 おおむね 良好	良好	・規律の維持、生徒への目配り、配慮がよくなされている。 ・メディアコントロールについては、学校での啓発がよくなされている。継続してほしい。 ・北陽中プライドをもって集団生活を送っている。
	年度 おおむね 良好	良好	・生徒同士、先生と生徒の関係がよく、それが学校生活の「居心地のよさ」「安心感」につながり、自主的・自律的な生活に表れている。 ・課題があってもチームで共有して対応することによって、生徒・保護者が相談しやすく、学校に心を寄せていることがよく分かる。

自己評価の概要と学校の改善策

○全ての項目において数値は上がっている。しかし、生徒、保護者、教職員の評価基準に大きな差があるように思われる。例えば、「あやめ運動」に関する生徒の評価は4.4と満足できる数値ではあるが、保護者、教職員はそれぞれ生徒の評価を下回っている。また、安全を意識した生活でも保護者や教職員の評価は生徒の自己評価よりも下回っている。保護者や教職員が目指す理想の北陽中生と、生徒自身が考える理想の北陽中生に差がある。現状のままの指導であれば生徒の自己満足で終わってしまうことが予想される。目指すべき生徒像を具現化し、さらなる指導と支援を実践していきたい。

○メディアコントロールに関しても、生徒、保護者、教職員の評価基準に大きな差がある。今年度はコロナによる、学校閉鎖や部活禁止のため自宅で過ごす時間が多く、メディアに触れる時間も例年以上にあつたとと思われる。アンケート結果の数値だけに満足せず、学校と家庭の連携しながら、メディアとの上手な付き合い方を指導していかなければならない。また、教師側だけの働き方だけではなく、生徒会や委員会による主体的な取組も実施していきたい。

○悩み、困りごとを、友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますかの質問の結果は4.2とおおむね良好と判断できる。先生方の日々の生徒との関わりがこの結果を生んでいると思われる。しかし、この回答に対し3以下と答えた生徒は28人いる。結果に満足することなく、生徒が安心して学校生活を確保するためにも相談しやすい雰囲気作りをこれからも構築する必要がある。

○前期と変わらない結果であった。しかし、職員室への入室の際の挨拶ほどの学年も大変立派になってきている。日々の先生方の声かけと賞賛のおかげである。来年度の課題として、北陽中生としての理想の姿(完成形)を生徒に示していきたい。

○前期の反省にも記載したが、生徒、保護者、先生方のメディアコントロールについての意識の違いに大きな差がある。メディアコントロールは家庭に頼る部分が多いが、保護者自身も子どものメディアコントロールへの働きかけが上手くしていない。そのため、大館市学校保健部の調査では、北陽中生のメディアコントロールの達成率が低いという結果になっていた。今年度携帯スマホ教室を保護者向けとして12月のPTA時に行ったが、来年度は1学期中に生徒、保護者、教職員を対象とした携帯スマホ教室を実施し早い段階での啓蒙活動を図りたい。

○前期に比べると11時以降に就寝する生徒の割合が増えている。これは3年生の就寝時間が遅くなったためである。受験勉強のため就寝時間は遅くなっていると推測できるが、実際は受験勉強とメディア利用の優先順位が付けられず、就寝が遅くなっていると判断される。メディア利用時間を減らすことで、たとえ受験勉強をしたとしても就寝時間は遅くならずにすむ。学活や帰りの会、学年集会などを利用して生徒への働きかけを根気強くやらなければならないとともに、学年通信を通して保護者への働きかけも必要である。

○生徒支援担当教諭の働きかけにより、不登校生徒や不登校傾向生徒への対応はしっかりとできていた。また、学級担任の定期的な電話連絡や家庭訪問などを通し、生徒との繋がりがも保つことができた。様々な事案の生徒がいる中で、学校全体で取組がなされていた。学級担任や学年に任せるだけでなく、校長先生、教頭先生、養護教諭も一緒に働きかけてくださる。今後もチームとして組織として、不登校生徒や不登校傾向生徒に支援していきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
9 規律ある学校生活 (13)	集団生活のきまりの理解と遵守	即時現場主義の貫徹と実効性のある事故防止対策 日常生活における「振舞い」の提示と実践意欲の喚起(共通実践事項等)	3	3
10 心身の健康の保持増進 (14)	健全な生活習慣の育成	メディアコントロール運動を中心とした望ましい生活習慣の意識高揚・定着	3	3
11 教育相談の実践 (15)	日常的・積極的な教育相談と生徒理解	いじめ未然防止と即時対応、不登校生徒に寄り添った組織的支援 多面的な生徒理解と組織的かつ効果的な教育相談の研修と体制づくり	3	4

【9に関連するデータ】

※5段階評価(5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題)

(13) 集団生活のきまりの理解と遵守

- 「あいさつをしよう—いつでも、どこでも、誰に対しても、明るくさわやかなあいさつをすることができましたか。」
- 「や」くそくを守る—学校生活のきまりや約束などを、しっかり守ることができましたか。」
- 「め」あてをもと—いろいろなことに、めあてをもって取り組む事ができましたか。」
- 「自分の命は自分で守る」など安全を意識した生活を心がけていますか。(登下校・避難訓練・熊対策など)
- 「あやめ運動」(元気なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもって)により、規律ある学校生活が実現していると思いますか。
- 新型コロナウイルス対策、警察などの関係機関や地域・小学校と連携した安全指導が、効果的に進められていると思いますか。
- 実効性のある事故防止対策に務め、安心・安全で規律ある集団の「暮らしかた」の指導がなされていたか。
- 日常生活における「ふるまい」の提示と生徒指導共通実践事項の共通理解が図られ、生徒の自律心を育むことにつながっていたか。

R2前期	R2後期	増減
4.4	4.3	- 0.1
4.4	4.4	0.0
4.4	4.4	0.0
4.6	4.6	0.0
3.7	3.8	+ 0.1
4.0	4.0	0.0
4.2	4.1	- 0.1
3.9	3.8	- 0.1

【10に関連するデータ】

(14) 健全な生活習慣の育成

- あなたはメディアコントロールを意識した生活をし「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組むことができましたか。
- 平日の就寝時間は 5-10時前 4-10時過ぎ~11時 3-11時過ぎ~12時 2-12時過ぎ~1時 1-1時過ぎ
- 毎日朝ごはんを食べますか 5-毎日食べる 4-ほとんど食べる 3-食べることが多い 2-食べないことが多い 1-全く食べない
- 体力面での自己課題を把握し、進んで体力向上に努めましたか。
- 家庭でのメディアコントロールの働きかけは適切ですか。
- 学校での保健に関わる取組は「早寝・早起き・朝ごはん、歯磨き、メディアコントロール」の意識を高めることや定着を図ることに役立っていますか。
- 「メディアコントロール運動」の取組みが、「早寝、早起き、朝ごはん」の定着につながっていたか。

R2前期	R2後期	増減
4.2	4.2	0.0
3.9	3.6	- 0.3
4.4	4.3	- 0.1
4.3	4.2	- 0.1
2.9	2.9	0.0
3.4	3.4	0.0
2.9	2.9	0.0

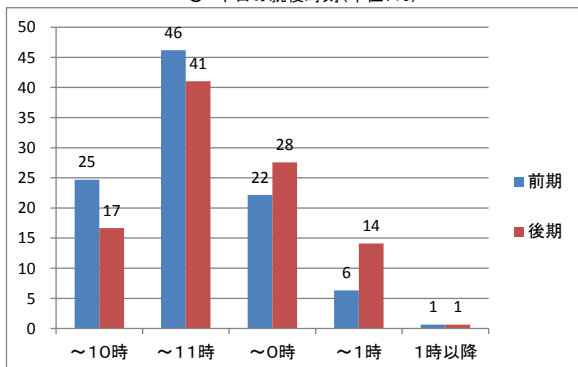
【11に関連するデータ】

(15) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解

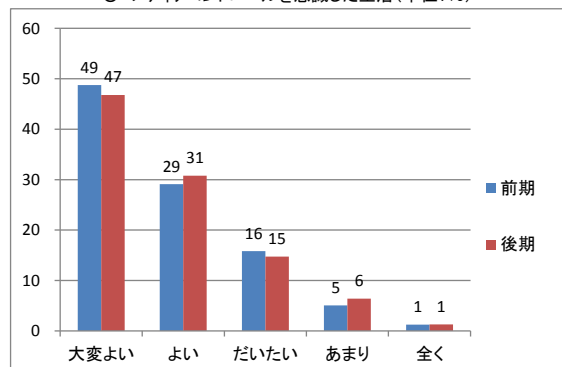
- 悩み、困りごとを、友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますか。
- 担任と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくださいましたか。
- いじめの未然防止と即時対応や、不登校の生徒に寄り添った組織的支援がなされていたか。
- 多様な手立てによる生徒理解が図られ、担任や副担任、養護教諭、SC等による教育相談が機を逃さずに行われていたか。

R2前期	R2後期	増減
4.2	4.2	0.0
4.6	4.6	0.0
3.9	4.1	+ 0.2
4.0	4.2	+ 0.2

○ 平日の就寝時刻(単位:%)



○ メディアコントロールを意識した生活(単位:%)



イ 生徒の状況

Ⅴ 思いやりの心、たくましい心

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
居心地のよい集団を実現する「集いかた」の指導、仲間と心をつににし、目標に向かう「挑みかた」の指導に努めている。	前期	良好	良好
	年度	良好	良好
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○朝の会では、日直のスピーチやスピーチに対して質問や反応する場面を作っている。帰りの会では、生徒の自発的な行為を紹介する「ちよいボラ」、授業中に頑張った生徒を紹介する「学習goodさん」など、お互いの良さを認め合う場面を意図的に設定することができた。今後は学年集会でも、共感し合える場を設定していきたい。</p> <p>○養護教諭と保健委員会による「新しい生活様式 北陽中バージョン」の取組により、コロナウイルスに対する全校生徒の意識が高くなった。</p> <p>○部活動強調週間では、吹奏楽部と学芸部が各部を応援して回る「応援ツアー」を行った。また、部活動終了時刻に合わせて、教師がおすすめの曲をかけながら、選手へメッセージを送る取組を行った。毎日の応援ツアーとメッセージで、各部の士気を高めることができた。</p> <p>○コロナウイルスの影響で大円陣が組めなかったり、激励の声がけの制限があったりと例年通りとはいかない激励会であったが、返事で意気込みを表したり、全力で校歌を歌ったりすることで大いに盛り上がった。</p> <p>○大会前や長期休業前にキャプテン会議を定期的に行った。担当教員とキャプテンが「北陽魂の心得」を確認し、部員全員に内容を伝えて理解させることによって、部活動に向かう意識が高まってきた。</p> <p>○校外学習実行委員や修学旅行実行委員、小中交流会実行委員を立ち上げ、自分たちで学年行事を企画することによって、よりよい学級・学年にしようとする意識を高めることができた。</p> <p>○学活でのアイスブレイキングや、短学活での学級プログラムなど、短い時間でも生徒が楽しんだり、リラックスしたりできる活動を行ってきたい。</p> <p>○コロナウイルス感染防止対策のための活動(加湿器の管理やバス乗降車時の消毒、教室の換気など)を、各委員会で担当して行うことができた。</p> <p>○北陽中シンポジウムは、初めての取組であったが、鍛えてきた「かた」を見せる集大成の場となった。学校を支えている地域の方々の声を聞いて、地域における自分たちの役割を改めて認識し、今後取り組むべきことを確認することができた。一方で、マイクなしでも聞き取れるような声量やスピードで発言することや、自分のこととして捉えながらの聞き方については今後の課題である。</p> <p>○選手たちの士気を高めることができるよう、秋季総体に向けてのメッセージやリクエスト曲を保護者から募集し、部活動強調週間に放送した。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
12 より良い集団生活を目指す学級・学年活動	(16) 個のよさが発揮される学級・学年づくり	共感的協働性を発揮できる創意ある学級活動の実践	4	4
13 集団力を高める自主的・自立的諸活動	(17) 創意に満ちた生徒会活動の充実	生徒の気付きを引き出し、具体的な手立てを考え実践・検証できる生徒会活動	4	4
	(18) 仲間と心をつににし、目標に向かう部活動	部活動心得「北陽魂」(計4回発行)、心揺さぶる激励会、部活動強調週間の工夫		

(○生徒 □保護者 ■教職員)

[12に関連するデータ] ※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

(16) 個のよさが発揮される学級・学年づくり	R 2 前期	R 2 年度	増減
○お互いの良さを認め合いながら、協力して学級づくりに励むことができましたか。	4.4	4.6	0.2
○朝の会や帰りの会で活躍する場面がありましたか。	4.4	4.5	0.1
○より良い学級、学年にしようと努力できましたか。	4.4	4.4	0
○生徒総会やフレンドリー集会では、みんなと意見を出し合い、考えを深めることができましたか。	4.3	4.2	-0.1
□学級や学年は、生徒一人一人を大事にした取り組みをしていると思いますか。	3.7	3.7	0
■共感的協働性を発揮できる創意ある学級活動の実践に努め、個のよさが発揮されていたか。	3.8	3.7	-0.1

[13に関連するデータ]

(17) 創意に満ちた生徒会活動の充実	R 2 前期	R 2 年度	増減
○他の人の役に立つ行動や他の人を思いやる行動ができましたか。	4.4	4.4	0
○より良い学校をつくらうと、生徒会活動に積極的に取り組みましたか。	4.2	4.3	0.1
■生徒の気付きを引き出し、具体的な手立てを考え実践・検証できる生徒会活動が進められていたか。	3.8	3.8	0

(18) 仲間と心をつににし、目標に向かう部活動

■「北陽魂」を旗印とした部活動運営、心揺さぶる激励会、部活動強調週間の工夫がなされていたか。	R 2 前期	R 2 年度	増減
	4.3	3.9	-0.4



3年生からのエール～秋季総体激励会～ スムーズな議事進行～生徒総会～ 3人のパネリストを招いて～北陽中シンポジウム～ 生活向上委員によるバス降車時の消毒